

＊ ニュースレター ＊

2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より



会員みなさまへ
[歯科審美への期待](#)
日本歯科審美学会長 石橋 寛二



会員みなさまへ
[日本歯科審美学会認定士制度発足に寄せて](#)
日本歯科審美学会副会長 桑田 正博



[第8回アジア歯科審美学会／第15回日本歯科審美学会併催学術大会](#)



[第14回日本歯科審美学会学術大会報告](#)

[日本歯学系学会連絡協議会設立される \(Union Council of Japan Dental Societies\)](#)

[委員会報告](#)



[米国審美歯科学会 \(ASDA\) に参加して](#)

[「香り」から心のやすらぎ 人の夢](#)

| [Back](#) |



2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より

会員のみなさまへ



歯科審美への期待

日本歯科審美学会長 石橋 寛二

発足時の研究会から現在の学会へと歩を進めてきた日本歯科審美学会は、これまで第2回国際歯科審美学会学術大会ならびに第3回アジア歯科審美学会学術大会を含めて14回の学術大会を重ね、16巻へと続く学会誌を発行してきました。社会のニーズに応えるために生まれ、歩んできた本学会の足跡は、わが国の歯科医療の指標を示す役割を演じてきたとも言えましょう。

私は、歯科審美が学際分野として広く認知された第2回国際歯科審美学会学術大会（第8回日本歯科審美学会を併催）開催の時期までを本学会の第一世代と捉えております。そして、第二世代に入ってから、歯科審美を体系化された領域として確立し、会員にとってわかりやすく価値ある生きた情報交換の場としての学会活動を続け、歯科審美への正しい認識を広めることを念頭におきました。

本学会は今、会員が最も知りたい情報を提示する学術大会、歯科審美学教授要綱の作成と評価、セミナーの展開、認定医制度と認定士制度の整備充実、そして広報活動の推進へと力を注いでおります。本学会の歩みと共に歯科審美の輪が臨床の場に広がり、既存の学会へも影響することとなりました。学会に集う人も増え、本学会の活動を肌で感じることができます。しかし、歯科審美あるいは審美歯科という言葉の社会的認知度はそれほど高くなく、私は半分程度と捉えております。そのイメージも偏っていることが多く、社会に正しく認識してもらう努力が本学会の役割として一層求められましょう。情報源としてはテレビ、新聞が大きいと思われませんが、情報の信頼性という点では医療関係者になるわけですから、私ども会員一人一人の責務として実行していかなければなりません。

長寿のシンボルともいえる百寿者（百歳以上の方）が急増しているそうですが、百寿者は自分の人生を肯定的に捉えているとの調査結果が出ております。口腔領域の美を求めることによって健康寿命の延長を目指したライフスタイルを支援する、という歯科審美の役割はますます重要になっていると言えましょう。

第8回アジア歯科審美学会学術大会・第15回日本歯科審美学会学術大会（併催）が迫ってまいりました。千田大会長ならびに実行委員会による興味あるプログラムに注目していただき、さらに松尾アジア歯科審美学会長を中心としたアジア各国の交流が促進されることが期待されます。多くの会員が名古屋へ賑やかに集い、明るい未来へのステップとしていただきたくお願い申し上げます。



2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より

会員のみなさまへ



日本歯科審美学会認定士制度発足に寄せて

日本歯科審美学会副会長 桑田 正博

認定医制度の検討に入ったそのころ平沼謙二元学会会長から認定士制度について、私の考えを求められました。それを受けて平成13年羽生哲也大会長のもと福岡で開催された学術大会の折、時の三役岩久正明学会長、石橋寛二副会長、松尾通副会長に私の考えを聞いていただき、先生方から“やりましょう”と積極的な励ましの言葉を戴き、常任理事会に提案し同意を得たうえ、認定士制度検討委員会を構成して検討に入りました。審議の過程では理事会、顧問会の先生方にもご指導を戴き規則、細則の骨子を固めて、この度平成15年度の総会に提示して認定士制度の発足が認められました。

歯科の分野における「グローバル化」その発展の速度はめざましいものがあります。全国各地の「歯科審美学会」は国境の垣根を越えて、人々に「歯科」を解りやすく伝えるための努力をしています。“美”は人類にとって共通の関心事であり、健康はすべての人々の願望です。歯科的健康こそが人類の心理的、精神的、肉体的そして生理的健康を保証しQOLを確立する要であり「人間美」をクリエートする源である、ということを広く世界に啓蒙していきたいものです。

歯科学会の国際交流は飛躍的に進み、教育そして臨床のグローバルスタンダードが確立されてくるでしょう。患者は良い医療を、国境を越えて求めているが、IT革命と言われる今日にあってそのスピードはより早まって行くと思います。

そうした社会のニーズに答えるべく、日本歯科審美学会はワールドクラスと認める認定士を世界に紹介していきたいと思えます。将来は世界各国の専門家も審査認定して、日本（世界に先駆けて歯科技工士の資格制度を確立した国）からその情報を発信することから始め、その輪を地球規模で広げて行くことができれば素晴らしいでしょう。認定士制度の情報は日本歯科審美学会のホームページに広報されます。

歯科衛生士には日々の臨床業績を示してもらい、審査委員はそれを客観的に評価します。歯科技工士には分野を絞って臨床業績を提示してもらおう。審査に当たっては、特に専門技術能力（教育者を含む）に目を向け評価します。

本制度で認定した認定士、例えば、矯正技工の認定士を求める国、組織、人は、矯正技工で認定された歯科技工士をネットでアクセスすることができるようになります。

有能な歯科衛生士、歯科技工士は数多く存在しますし、世界からも求められています。認定士を広く社会に啓蒙することで、歯科のマーケットを拡大していく一助になると考えています。



2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より

第8回アジア歯科審美学会／第15回日本歯科審美学会併催学術大会

【会 期】

2004年7月17日 (金) -19日 (月・祝日)



大会長 千田 彰

【会 場】

名古屋国際会議場

【メインテーマ】

Global Esthetic Forum 2004@NAGOYA : Sciences in Esthetic Dentistry

【学会内容】

すでにファーストサーキュラーなどでもご案内申し上げていますように、平成16年度日本歯科審美学会学術大会が、私たちの“なかま”アジア歯科審美学会をホストして標記日程で名古屋にて開催されます。アジア歯科審美学会は日本歯科審美学会のメンバーが、アジア諸国の代表的な臨床家とともに「アジアの人々」のための歯科審美学、審美歯科の発展と貢献を意図して1990年に設立しました。現在の加盟国(団体)は13カ国になり、西はインド、トルコ、中央アジア諸国(ウズベキスタンなど)までの地域をカバーする文字通りの国際学術団体に発展しました。学術大会は隔年、つまり2年に1回加盟国(団体)がホストして開催することになっています。現在の会長は日本歯科審美学会副会長である松尾通先生です。

ご記憶の会員も多いのではないかと思います。日本歯科審美学会は平成6年の第5回学術大会(鹿児島大会)で第3回のアジア歯科審美学会学術大会をホストしております。そして前々回のアジア歯科審美学会はインド(ムンバイ)でインド歯科審美学会が、前は韓国(ソウル)で韓国歯科審美学会が各々ホストして盛大に開催されてきました。

同じアジア地域にいる私たちが、国情や歯科医療の事情の違いを乗り越え、“審美歯科がもたらす幸せをアジアの人々すべてに”をスローガンとしてこのような学術大会で討論し、情報を交換して影響しあうことはすばらしいことであろうと思います。また“学会のなかま”と交流し、国の枠を超えて個人が、またはグループが各々友人として強い絆で結ばれている例は数限り無くあげることができます。

この大会では、国際的な交流に加え、パラデンタル(デンタルファミリー)の間での歯科審美を通じた“結びつき”、“一体感”を高めることも大きな目標にしています。基調講演、特別講演、シンポジウム、アジアフォーラム、企業協賛セミナーなどのほとんどのプログラムに、そしてフリーペーパー(ポスター研究発表)にも歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、歯学研究者の枠を超えて、すべてに“肩を並べて”参加できるような配慮をしました。

さらに“審美歯科はすべての歯科臨床領域をカバーする”という強い信念のもと、“予防”から“老年歯科”までに至る領域についてプログラムに組み入れました。そして“科学と芸術、経験と証明の接点”をもとめて“Sciences in Esthetic Dentistry”をメインテーマにして大いに議論をして頂くように配慮しています。

もちろん学会に集う“なかま”の社交の場も、公式ホテル（全日空ホテル・ホテルグランコート名古屋）での歓迎レセプション（大会前日の16日夜）、ガラディナー（17日）に設けています。そして“開かれた学会”をアピールする市民公開講座“われらがなかまアジアの人々”も学会最終日に計画し、多くの市民に日本歯科審美学会の社会的貢献を知って頂くチャンスとしたいと思っています。

おもな学術プログラムは

- 基調講演“Esthetic Dentistry, Its Significance and Goal”（石橋日本歯科審美学会長、Gallon国際歯科審美学会長、Ko国際歯科審美学会次期会長）
- 特別講演（Remineralization of Enamel, Anticariogenic Effects of CPP-ACP, Reynoldsメルボルン大学教授、Esthetic Composite Bonding, Its Possibility and Limitation, マニトバ大学Suzuki教授、Optimizing Aesthetics Around Implants and Natural Teeth, Van Dooren先生）
- 予防、歯冠色修復、インプラント・リハビリ、ビューティフルエイジングに関するシンポジウム4題
- 特別セミナー（技工士、衛生士の各々ためのワークショップ、講演、シンポジウム）
- アジアフォーラム（アジア各学会公式代表者による講演、Significances of Esthetic Dentistry in Asia, Esthetic Dentistry Originated from Asia）
- 公募ポスター発表（アジアの各学会、アジア歯科審美学会会員、日本歯科審美学会会員によるポスター研究発表を広く募集します）

（なお特別セミナーを除いて、これらの学術プログラムの公式言語は英語とさせていただきます。ただし主要プログラムには原則として同時通訳が付きます）

学術プログラム、また参加登録などの詳細についてはファーストサーキュラー、間もなく発行されるセカンドサーキュラーをご覧ください。また学術大会ホームページ、

（<http://www.jdshinbi.net/aaad/>）にもぜひお立ち寄り下さい。

多くの皆様の参加を実行委員会一同心からお待ちしています。



Gallon IFED会長



KO IFED次期会長



石橋JAED会長



Reynolds教授



Suzuki教授



Van Dooren先生

| [Back](#) |



2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より

第14回日本歯科審美学会学術大会報告

第14回日本歯科審美学会学術大会大会長 新谷 英章
準備委員長 富士谷盛興

平成15年11月1日(土)、2日(日)に広島の地において、メインテーマ「美しい笑顔と審美歯科: Beautiful Smiles in Esthetic Dentistry」のもと第14回日本歯科審美学会学術大会を開催し、無事終了することができました。これはひとえに、日本歯科審美学会および広島県歯科医師会の会員の皆様、ならびに協賛企業の皆様のご指導とご協力の賜物でございます。心より御礼申しあげます。

本大会は、とくに、患者さんを全人的に治療するための「審美歯科の質」というものにスポットを当て企画しました。すなわち、患者さんのところをいやす審美歯科とは何か、患者さんがいやされる審美歯科とは何かに焦点を当て、患者さんの美しい笑顔(Beautiful Smiles)を得るためには、最新の知識や技術のみならず患者さんの心理も含めその背景にあるいろいろな要素を考慮しなければならないということ、そして術者側もいやされなければ治療の成功はありえないこと等の観点を中心にして構成しました。

初めての試みではありましたが、2日間にわたりアロマに包まれた会場で、リラックス、リフレッシュしながら多数の先生方の講演を拝聴しました。牟田泰三広島大学長による特別講演「星と宇宙」、石橋寛二会長による会長講演「歯科審美の社会的評価に関する一考察」、大山喬史東京医科歯科大学大学院教授による教育講演I「口もとの美」、韓国歯科審美学会会長のJong-Yeop Lee教授による教育講演II「韓国の審美歯科事情」等がございました。また、「審美歯科におけるいや癒し」というテーマのシンポジウムにおいて、東北福祉大学感性福祉研究所の伊藤あづさ講師により「いや癒しの環境」、(株)タカラスペースデザインの武智宗則氏により「いや癒しの診療室」、ティースアート代表の椿 智之先生により「いや癒しの診療室」という内容で活発に討論して頂きました。さらに、テーブルクリニックとして、(株)ハロートウモロージャパン代表の新野まりあ先生より「いや癒される治療とは。患者さんのところをつかむ審美治療」と、(株)ジーシーの飯山賢一氏より「ITと審美歯科技工…患者さんの情報を伝達するには」について、実演も含め視聴覚設備を用いながら情報を提供していただきました。その他、漂白関連、レジン・セラミックス関連、包括的審美歯科医療などに関する34題のポスター発表があり、会場は熱気に包まれていました。また、26社にのぼる器材展示もあり、最新の情報を提供して頂きました。

大会初日の午後には、「白い歯と美しい笑顔」のための学術情報を市民の皆様を提供するために、市民フォーラムを広島大学歯学部、広島県歯科医師会、広島県、広島市等の後援で開催しました。同じくアロマに包まれた会場で、リラックス、リフレッシュしながら、「白い歯」と「美しい笑顔」について多方面からアプローチしました。松尾 通副会長による「笑顔は地球語」、ミス日本コンテスト大会委員長の和田優子氏による「ミス日本における美人の変遷」、永井歯科診療室院長の永井茂之先生による「歯を白くするには」等の講演や、2003年度ミス日本グランプリでTVキャスターとして活躍中の相沢礼子さんによるトークショーなども行い、盛り沢山の内容でした。テレビスポットや新聞等によってフォーラム開催の宣伝を行ったりしたため多くの市民の参加もあり、開かれた学会を目指す本学会にとりまして本フォーラムは大変有意義だったと思ひ

ます。

皆様のお陰様をもちまして、学術大会には韓国歯科審美学会からの10名を含めると約400名、市民フォーラムには約350名（市民約200名、学会関係約150名）の参加者があり、盛会裡に終了することができました。今回の学術大会と市民フォーラムが、参加していただきました皆様のお役に立ちますれば幸甚です。どうもありがとうございました。



| [Back](#) |



2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より

日本歯学系学会連絡協議会設立される (Union Council of Japan Dental Societies)

日本歯学系学会連絡協議会 会長 赤川 安正

日本学術会議の歯学系の3名の会員、小林義典会員、内田安信会員、堀内博会員を中心に、第7部・咬合学研究連絡委員会、口腔機能学研究連絡委員会、齲蝕学・歯周病学研究連絡委員会の合同により2年越しに準備が進められ平成15年9月16日に日本学術会議講堂で「日本歯学系学会連絡協議会」が発足した。

この会の設立趣旨は以下のとおりである。

1. 歯学は今、医学との関係や、他の学問領域との連携の見直し、大学院、歯学部、歯学部附属病院の再編・統合など、多くの課題に直面している。
2. 歯学が国民の付託に応え、21世紀に歯学の重要性をさらに社会や国民に理解してもらうためには、学術研究の一層の推進、国民の健康と福祉の向上への貢献、国民・政府・歯科界に対する発言や提言が必要である。
3. このためには、学会（研究者）相互の情報交換と意志疎通を緊密にし、さらに多くのエビデンスに基づいた政策提言を日本学術会議を通じて行わなければならないと考える。
4. この目的の達成のため、歯学系の各研究領域を網羅する連絡組織を設立することにした。本協議会は加盟各学会によって運営され、学術情報の迅速な共有を基に、歯学の学術研究上の諸問題を協議し、必要な政策提言を日本学術会議を通して行い、日本学術会議との連携を通じて、歯学研究の推進と普及、国民の健康福祉の向上を図る。

初代会長には赤川安正（日本学術会議第7部・咬合学研究連絡委員会・18期幹事委員、本学会理事）が、副会長（総務担当）には岩久正明先生（日本学術会議第7部・齲蝕学・歯周病学研究連絡委員会・18期幹事委員、本学会監事）が、副会長（政策提言担当）には瀬戸皖一先生（日本学術会議第7部・口腔機能学研究連絡委員会・18期幹事委員）が、常任理事として相馬邦道先生（日本学術会議第7部・咬合学研究連絡委員会・18期幹事委員）がそれぞれ就任された。現在、理事会や政策提言委員会も構成され、50を超える学会がすでに参加されているとのこと、趣旨に添う活動が大いに期待される。本学会も、この「日本歯学系学会連絡協議会」の設立趣意に賛同し、加盟することが第14回日本歯科審美学会総会で報告された。本学会の代表担当者は、田上順次次期会長となっている。

日本歯学系学会連絡協議会ホームページ (<http://www.ucjds.jp/>)

委員会報告

総務報告

平成15年度会員について (平成15年9月30日現在)

- ・ 会員数1,687名 (法人会員を含む)
A会員1,074名 B会員511名 C会員76名 法人会員26社

会員動向について (平成15年4月1日～平成15年9月30日)

- ・ 新入会 204名 (社) A 144名 B 40名 C 20名 法人会員 0社
- ・ 退会者 22名 (社) A 11名 B 9名 C 1名 法人会員 1社

(総務担当理事 久光 久)

学術委員会

本学術委員会は、本年第15回日本歯科審美学会学術大会と第8回アジア歯科審美学会学術大会の両大会が併催される関係から、平成16年7月末まで任期延長になりました。残された期間において、懸案事項につきまして少しでも改善される様に活動を進めて行きたいと考えております。

1. 第14回日本歯科審美学会学術大会

1. 昨年 (平成15年) 11月1日 (土) ・ 2日 (日) の両日、広島県歯科医師会館、エソール広島において新谷英章大会長 (広島大学) 主管の基、メインテーマ「美しい笑顔と審美歯科」として盛大かつ成功裏に開催されました。
2. 同大会時にデンツプライ賞候補者として、本山智得氏他 (医療法人本山歯科医院・広島大学大学院医歯薬総合研究科) が選出されました。
3. 第13回学術大会の学会優秀発表賞ならびにデンツプライ賞として、以下の先生方が総会時に表彰されました。
学会優秀発表賞
研究報告：五十嵐奈美氏他 (東北大学大学院歯学研究科)
臨床報告：照井宗之氏他 (岩手医科大学歯学部)
デンツプライ賞：石川正夫氏他 (ライオン歯科衛生研究所)

2. 第15回日本歯科審美学会学術大会・第8回アジア歯科審美学会学術大会

【日 程】2004年（平成16年）7月17日（土）～19日（月・祝日）

【会 場】名古屋国際会議場

【大会長】千田 彰教授（愛知学院大学）

メインテーマ：「Global Esthetic Forum 2004 @ NAGOYA」

アジア歯科審美学会は、日本歯科審美学会がホストでもあり会員の皆様には名古屋に盛大にご参集下さい。

3. 学術委員会からのお知らせ

学術大会においてデンツプライ賞、ならびに学会優秀発表賞としてポスター発表し学会誌に原著論文あるいは臨床論文として投稿され掲載あるいは掲載予定の論文の中から、研究報告と臨床報告の各一編を学会優秀発表賞選考委員会において選考し、次回学術大会総会において表彰しております。デンツプライ賞につきましては、従前通り行えますが、次回（第15回）学術大会・総会は、千田彰大会長のもとで、第8回アジア歯科審美学会（平成16年7月17日～19日）と併催される関係から、時期的にみて前回（第14回）学会優秀発表賞の選考ならびに表彰は困難となります。

従って、学会優秀発表賞の表彰は次々回（第16回）諏訪富彦大会長のもとで開催予定の学術大会・総会となる事を前もってお知らせ致します。

（委員長 木村幸平）

編集委員会

本年度第2回編集委員会において16巻2号の編集作業を行いました。ポスター発表の講演論文23編の中で、修正を加えることによって、約半数については原著論文、約1/3は臨床論文に値する興味ある内容であることから、関係の各著者に改めて原著論文、臨床論文として投稿の依頼をしました。

未投稿講演論文への対処としての事前抄録の掲載はしないことにしましたが、16巻1号で実施しました。前回の広報において、一般発表の内容は事後抄録として掲載する準備を進め、17巻2号から実施予定とお知らせしましたが、いろいろ調整が必要なことが多く、18巻2号からの実施になる予定です。

なお、内容とマッチしないタイトル、商品名が使用されているタイトル、誤字・脱字が見受けられることなども問題点として協議されました。皆様のご協力をお願いいたします。

また、講演論文に頼らない誌面充実策として種々の方法（誌上セミナー、特集、臨床のヒントや各種術式、総説など）を検討していますが、それを実現するためには、他の委員会との緊密な連携が必要なことから、会長、関連委員会（学術委員会、セミナー委員会、認定審議会および認定士審議会）委員長との連絡協議会を実施しました。会員に魅力ある誌面づくりを目指していますので、会員各位のなお一層のご支援をお願い申し上げます。

（委員長 長岡英一）

セミナー委員会

日本歯科審美学会セミナーも多くの先生方の参加と御支援を賜りまして、平成15年度最後のセミナーを3月20日（土・祝）に東京にて開催することとなりました。

セミナー開始以来、延べ人数1800人余の御参加を頂きましたことは、本学会役員一同、深く感謝いたすと共に、セミナーの今後の企画運営に関し大きな責任を感じているところです。

来年度よりは、セミナー委員会も人心を一新しより充実した興味深い内容が企画されることと存じます。奮って御参加の程、お願い申し上げます。

（委員長 佐藤 孝）

平成15年度最終セミナー

第8回審美歯科臨床の最前線 –健康美への追求–

【日 時】平成16年3月20日（土・祝）AM10：00～PM4：30

【会 場】東京／中央社会保険健康センター ペアール新宿

【内 容】

- 総義歯補綴から見た審美歯科 寺西邦彦（東京都開業）
–インプラントの活用と審美性の回復–
- 生体との調和を求めて 山本英夫（ボストン大准教授）
–審美的補綴治療について–
- 生体との調和を求めて 山本里見（タフツ大准教授）
–審美的歯周治療について–
- 審美歯科における矯正治療 山口秀晴（東歯大・教授）
–近年の非抜歯治療法–
- 新しい審美歯科 丸山剛郎（阪大・名誉教授）
–不定愁訴と顔のゆがみと咬合–
- コーディネーター 寺川國秀（東京都開業）

国際渉外委員会

第4回IFEDの開催について

2004年はわが国では第8回アジア歯科審美学会（AAAD）／第15回日本歯科審美学会（JAED）共催学会が7月に名古屋で開催されます。それに先だって5月27日～29日にイタリアのベニスでヨーロッパ歯科審美学会（EAED）と国際歯科審美連盟（International Federation of Esthetic Dentistry, IFED）との共催で第4回IFED World Congressが開催されます。IFEDは1994年にEAED、JAEDおよびアメリカ歯科審美学会(AAED)の3団体が集まって設立され、ホスト団体との共催の形で3年毎に大会が開かれています。第1回（1994）はイタリア フローレンス、第2回（1997）は京都、第3回（2002、テロのため延期）はアメリカ ワシントンで開催され、今回再びヨーロッパへと一巡したことになります。日本からは主催者EAEDセッションの招待講演者として桑田正博先生が“State of the Art in PFM reconstructions”と題して、また、IFEDセッションでの日本代表として田上順次先生が“Minimally Invasive Esthetic Dentistry”と題してそれぞれ講

演されます。また、一般発表としてポスターセッションが用意されています。わが国から多くの参加者を募るために格安のツアーを企画しましたので是非ご検討下さい。なお、第4回大会の詳細については (<http://www.eaed.org/>) をご覧下さい。

IFEDは設立して10年が過ぎようとしています。その間に加盟団体は3団体から18カ国20団体までに成長し、さらにその数は年々増えつつあります。設立団体であるJAEDの責任がますます重くなってきたことを実感しております。2007年の第5回大会は韓国で開催され、その後は2年毎に開催されることがすでに決まっています。IFEDの活動の詳細については (<http://www.ifed.org/>) をご覧下さい。

(IFED理事 福島正義)

会則検討委員会

平成15年度第14回日本歯科審美学会学術大会（於広島）の総会において、日本歯科審美学会会則の一部改正案が承認され、以下のようにになりましたのでお知らせいたします。

(委員長 新谷英章)

1. 第1章 総則 第3条に財団法人口腔保健協会の住所を掲載。

- 第3条 本会の事務局は、東京都豊島区駒込1丁目43番9号財団法人口腔保健協会内におく。

2. 第6章 事業 第22条～第27条を以下の文言に変更。

- 第22条 学術大会を年1回以上開催する。
- 第23条 機関誌『歯科審美』を年2回以上発行し、会員に配布する。
- 第24条 各種委員会を組織し、必要な事業（セミナー・シンポジウム・ニュースレター等）を行う。
- 第25条 日本歯科審美学会認定医及び同認定士の認定を行う。なお、規則及び施行細則等は別に定める。
- 第26条 表彰（学会優秀発表賞及びその他の賞）を行う。なお、各賞に関する必要事項は別に定める。
- 第27条 国内外における関係団体及び諸学会との連絡協調を図る。なお、必要事項は別に定める。

認定審議会

第14期（平成15年度秋季）認定医申請の受付は平成15年11月7日（金）に締め切られ、2名の申請があった。これらの方々は書類審査で合格されたので、平成16年1月30日（金）13時～16時・東京グリーンホテル水道橋にて口頭試問する予定である。合格すれば登録者は61名となる。

第15期（平成16年度春季）の受付は下記の期間となっています。希望者は受付期間中に申請書類を（財）口腔保健協会の学会事務局宛にご送付下さい。なお、詳細は「歯科審美」第16巻第2

号に掲載する「認定医申請手続きに関してのお知らせ」をご参照下さい。

認定医申請受付期間：

平成16年4月1日（木）～平成16年5月14日（金・必着）

なお今年度（平成16年4月1日より）認定医審査料等が改定され、下記のように値下げされますので、奮って申請して下さい。

申請料：10,000円 登録料：30,000円

更新料：10,000円 更新上限年齢：満63歳

更新時において満63歳以上で必要な要件を満たしている場合は、認定医申請書（様式8）を提出し終身認定医となることが出来ます。詳しくは学会事務局にお問い合わせ下さい。

（委員長 加藤喜郎）

広報委員会

広報委員会では審美歯科を正しく理解していただくことを目的として一般向けのページを開設し、昨年夏に公開しました。会員の皆様も新しくなったホームページをぜひ一度ご訪問下さい。本学会がIFEDの設立団体として、またAAADのリーダーとして積極的な活動をしてゆくために必要とされている英文ページは今期委員会の仕事として完成させるべく準備中です。

昨年あたりから歯を白くするサロンがあちこちで開設され、歯のホワイトニングが若い女性の注目を集めるようになって来ています。審美歯科の新しい展開ですが、歯に対する認識の向上や、健康で美しい口腔内の維持を目指すきっかけになれば喜ばしいことです。一層活発な広報活動が必要と思われれます。

（委員長 黒田康子）



2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より

米国審美歯科学会 (ASDA) に参加して

10月16日(木)～18日(土) アメリカ合衆国マイアミにてASDA (American Society For Dental Aesthetics) の第27回国際ミーティングが開催されました。学会出席者は300余名で日本からは今回10名が参加しました。ASDAは Dr.Irwin Smigelを会長として、アメリカ合衆国のみならず、インド、トルコ、韓国、日本など世界各国にメンバーを有する歴史ある審美歯科学会のひとつです。本学会の会員は最低過去5回以上の学会出席と定められたケースプレゼンテーションによる審査に合格した者に限られ、毎年10人前後の新会員が誕生し、少しずつではありますが着実に会員数は増えています。

学会初日はDr.Irwin Smigel会長の挨拶に始まり、トルコ審美歯科学会会長でもあるDr.Galip Gurellによる「Deconstructing the Art of Aesthetic Dentistry」と題した講演が行われました。講演内容は、ラミネートベニヤ修復による審美歯科治療において、必要最小限のプレパレーションで最良の修復を確実に行うための新しいテクニックについてであり、その全容が書かれた彼の著書がクインテッセンスから発売されるとのことでした。つづいてSally Mckenzieによる

「Tackling the Top Practice Issues of 2003」と題した審美歯科医院経営におけるマーケティングや患者管理そしてリクルートについての講演が行われました。午後からは6つのワークショップが用意されどの会場も盛況のようでした。学会2日目は午前・午後で5つの講演がされ、その中では、Dr.Craig M.Misch の失われた歯槽骨を再建し増量することによる、バイオメカニカルで機能的なそして審美的なインプラント治療についての講演とDr.Van P.Thompsonの臼歯部におけるオールセラミッククラウンにおいて形成量、セメンテーション、トースサポート等の様々な観点からいかに破折を防止し、また、対合歯を守るかについての講演が印象的でした。学会3日目は、午前に2講演と午後から4つのワークショップが行われ、そして例年のごとく学会最後の夜のディナーパーティーが盛大に行われたとのことですが、残念ながら私はこの日、日本へ帰国することとなり最後の夜を楽しむことは出来ませんでした。講演の大半が臨床講演であることから、我々臨床医にとっても非常に興味深いものばかりでした。

(札幌市開業 渡部圭吾)



2004年 Winter Vol.9 (2004年1月発行) より

「香り」から心のやすらぎ 人の夢

東北福祉大学感性福祉研究所 伊藤あづさ

「私と8月6日」…中学3年生の時、県の弁論大会で入賞した時の演題です。その年巡回展での「原爆展」との出会いは、心を大きく揺さぶる衝撃と共に、その後のヒトとしての生き方に大きな影響を与えた出来事でした。そんなこともあり、「広島」は、思い入れの大きい地でした。

縁あって、その広島で「香り」のお話をさせていただきましたこと、そして多くの臨床現場の先生方に歓迎していただきましたことを、まず御礼申し上げます。

未知の感覚とも言われる嗅覚は、人間の感覚の中でも原始感覚の一つと言われており、気分(mood)のような、比較的弱いが持続的な底辺感情への効果が大きいものです。近年ではアロマセラピー(芳香療法)がブームになり、精油の持つ効能・効果を暮らしの中で活かすことも注目を集めています。が、これまでの日本における「香り」の研究は、どちらかという化学的・心理的な側面からのアプローチが多く、理論を実際に応用・検証し、「心と体が共に楽になる=癒されるという実感」へと発展させることができませんでした。

そうした研究背景に敢えて挑戦し、成果の一端として、免疫効果・抗菌効果を具体的に提示させていただきました。このことに、医師である先生方の多くが興味を持ち、今後の臨床応用への手応えを掴んでいただける結果となったようで、その後たくさんの励ましをいただきました。改めて今回のご縁に感謝申し上げます。

日本においても安全で正しい香りの使用法が定着し、さらに文化として根付くことを目標に、今後も精進してまいりたいと思っております。「香り」によるやすらぎが人の夢を育む…幸せのお裾分けを広げていきたいですね。